

オフィシャルイベント

CP+ (シーピープラス) 2026



会 期：2026年2月26日(木)～3月1日(日) (オンラインイベントのアーカイブ配信は3/31まで)

会 場：パシフィコ横浜およびオンライン

主 催：(一社) カメラ映像機器工業会

後 援：経済産業省／観光庁／神奈川県／横浜市／横浜商工会議所／日本貿易振興機構

特別協力：日本カメラ博物館／日本新聞博物館／横浜美術館

協 力：(公社) 応用物理学会／カメラ記者クラブ／東京写真記者協会／(一社) 電子情報技術産業協会／

日本営業写真機材協会／(一社) 日本オプトメカトロニクス協会／(一社) 日本カメラ財団／(一社) 日本光学会／

(公社) 日本広告写真家協会／(公社) 日本写真家協会／(一社) 日本写真映像用品工業会／(一社) 日本写真学会／

(協組) 日本写真館協会／(公社) 日本写真協会／(一社) 日本写真文化協会／(一社) 日本電子回路工業会／

日本フォトイメージング協会／(一社) 日本望遠鏡工業会／パシフィコ横浜／(公財) 横浜市観光協会 (50音順)

対 象：一般、ビジネス

公式サイト URL：https://www.cpplus.jp/

総来場者数(参加数)：58,329人(前年比104.5%)

出展社数：149社 過去最多

内訳：(国内出展社数：111社 海外出展社数：38社(過去最多) 新規出展社：43社(過去最多))

出展参加国と地域数：12の国と地域

■開催内容

CP+ (シーピープラス) は、最新のカメラ・映像機器や関連技術を核に、写真・映像文化の新しい可能性を提案し、産業活性化を牽引する世界最大級の「総合的カメラ映像機器ショー」である。

CP+2026は、2026年2月26日から3月1日までの4日間、パシフィコ横浜およびオンラインのハイブリッド形式で開催された。パシフィコ横浜では展示ホールに加えアネックスホールを全面活用し、過去最多となる149の企業・団体が出展。来場者数は前年比104.5%の58,329人に達し、前回を上回る盛況となった。

今年のテーマは「Make your world pop. もっと、盛れる。毎日、特別な日も」。杉本博司、都築響一、川内倫子、ホンマタカシといった世界的に高く評価される日本人写真家・表現者を迎え、初心者からプロまでが楽しめる多角的なプログラムを展開。日本が誇る写真・映像文化の層の厚さと、クリエイティブ産業としてのポテンシャルを国内外に発信する場となった。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

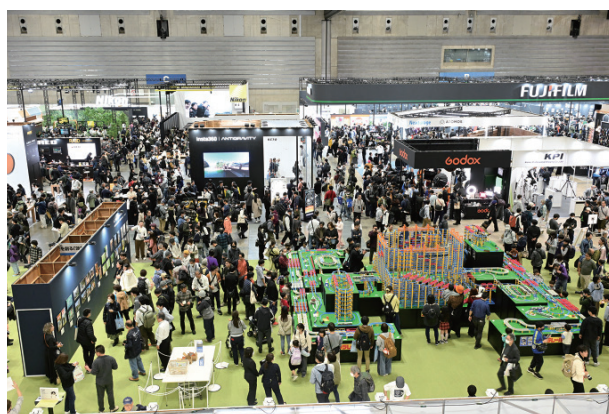
・CP+2026における新規取り組み

①若年層カルチャーの深掘りとコミュニティ形成

－若者文化を背景とした自主制作本販売会「ZINES FAIR」を、前年比1.5倍の規模に拡大して実施。また、SNSで普及する「ぬい活(ぬい撮り)」をテーマとした撮影体験企画など、サブカルチャーと技術を融合させたコンテンツを展開した。これらにより、次世代の表現者層を取り込み、新たな需要創出への取り組みを行った。

②来場者利便性の向上とデジタル化の推進

－有料優先入場チケットの導入により多様な来場ニーズに対応。さらに入場登録の完全デジタル化(QRコード対応)を実施し、スムーズな運営とユーザー体験の向上を実現した。



CP+ (シーピープラス) 2026

 **CP+** CAMERA & PHOTO IMAGING SHOW 2026

③次世代クリエイターの育成

－ 学生団体・写真サークルを対象としたアワードを新設。若手クリエイターの作品を表彰し、交流を促進することで、将来のコンテンツ産業を担う人材育成に寄与した。

④スタートアップ企業などの新規出展促進

－ 低料金の小規模ブースを設置することにより、国内外からスタートアップ企業などの新規出展が増えた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

・欧米主要メディアとのグローバルパートナーシップ

－ 「PetaPixel」「DPReview」「CineD」といった世界的に影響を持つ欧米の主要映像メディア（全5社）を公式パートナーとして認定。これらメディアによる現地取材と積極的な情報発信を通じて、日本発の最新技術や表現文化がリアルタイムで世界へ情報発信された。

・仏「Salon de la Photo」との国際連携

－ フランスの展示会「Salon de la Photo」と連携し、日仏合同写真展を開催。両国の「ZOOMS」受賞作品をCP+会場に集結させるとともに、受賞者によるトークセッションを実施。写真・映像を通じた国際文化交流の活性化と、日本コンテンツの国際的な認知度向上を図った。

